

- 4) 三浦靖彦. 第2章：在宅医療に必要な知識と理解  
在宅医療における臨床倫理. 医療法人社団悠翔会編,  
佐々木敦 (医療法人社団悠翔会) 監修. 在宅医療：多  
職種連携ハンドブック. 東京：法研, 2016. p.194-9.

## V. その他

- 1) Tsutsui K, Nemoto M. A case of beriberi with leg  
edema, pleural effusion, and anemia. Ann Clin Case  
Rep 2016; 1: 1067.  
2) Tsutsui K, Nemoto M. A case report of fibromyal-  
gia. Ann Clin Case Rep 2016; 1: 1176.

## 精神医学講座

|           |                 |
|-----------|-----------------|
| 教授：中山 和彦  | 精神薬理学, てんかん学    |
| 教授：伊藤 洋   | 精神生理学, 睡眠学      |
| 教授：中村 敬   | 精神病理学, 森田療法     |
| 教授：宮田 久嗣  | 精神薬理学, 薬物依存     |
| 教授：須江 洋成  | 臨床脳波学, てんかん学    |
| 准教授：忽滑谷和孝 | 総合病院精神医学        |
| 准教授：山寺 亘  | 精神生理学, 睡眠学      |
| 准教授：小曾根基裕 | 精神生理学, 睡眠学      |
| 准教授：小野 和哉 | 精神病理学, 児童精神医学   |
| 准教授：塩路理恵子 | 精神病理学, 森田療法     |
| 准教授：館野 歩  | 森田療法, 比較精神療法    |
| 准教授：古賀聖名子 | 精神薬理学, 質の心理学    |
| 講師：伊藤 達彦  | 総合病院精神医学, 精神腫瘍学 |
| 講師：川村 諭   | 精神薬理学           |
| 講師：川上 正憲  | 森田療法            |
| 講師：品川俊一郎  | 老年精神医学          |
| 講師：小高 文聰  | 精神薬理学, 神経画像学    |

## 教育・研究概要

### I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

我々は、精神療法と精神病理学的研究、および児童精神医学分野の研究を施行している。

発達障害とパーソナリティ障害の関係についての研究では、発達障害パーソナリティ相互の関係を架橋する仮説であるハイブリッド仮説を発表した。宗教と精神療法の関係に関する研究 (小野) 一般精神障害と発達障害を比較した注意機能の調査 (沖野), 境界性パーソナリティ障害の長期予後研究 (小豆島, 小野), 自閉スペクトラム症の長期引きこもり事例への家族療法的アプローチ (杉原), など多様な病態の理解と治療方略を検討してきた。

児童精神医学研究では、弁証法的行動療法の思春期以降の発達障害へ適用を研究し、マニュアルを作成し、施行の準備を進めた。さらに厚生労働省科学研究において、「行動障害の状態にある知的・発達障害者に対するの支援に関する児童精神科医の関わりの実態調査」が2年目となった。本研究では、児童精神科医が、障害福祉分野においてどの程度関わりを持ち、どのような困難を抱えているかを明らかにする目的で、日本児童青年精神医学会の会員医師を対象にアンケート調査を施行した。調査の結果、この分野に関わる児童精神科医は全体の半数近くに及んでいたが、種々の困難も感じており、専門研修

の拡充と、職員教育の必要性、施設設備の充実、医療連携体制の確保の4点が今後重要であると考えられた。

## II. 森田療法研究会

若手精神科医に向けた基本的な面接技法の研修プログラム・教材を、他学派の精神療法家と共同で開発している。今年度も自閉スペクトラム症を伴う強迫症に対する実践的研究、思春期例と「ひきこもり」に対する森田療法の応用、社交不安症の精神病理学的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究、森田療法の緩和医療への応用についての実践的研究を継続した。

## III. 薬理生化学研究会

基礎研究では、げっ歯類を用い1. 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法を用いた新規向精神薬のモノアミン神経伝達への影響に関する研究、2. 薬物依存の形成機序に関する研究、3. 薬物依存に関連する衝動行為の神経基盤に関する研究および、4. 薬物依存に対する抗渴望薬の開発に関する研究を行った（2, 3, 4はNTTコミュニケーション科学基礎研究所と専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究）。臨床研究では、1. 統合失調症患者の回復期を予測する生育・心理・社会的因子に関する研究、2. D2/3受容体を介した抗精神薬による顕現性回路の調整メカニズムに関する研究、3. 統合失調症患者におけるアドヒアランスの質的研究、4. 修正型電気けいれん療法の奏功機序にかかわる遺伝子発現調節因子に関する研究、5. 月経関連症候群、非定型精神病、急性精神病の病態に関する研究を行った。薬理生化学研究会では、基礎と臨床を統合した研究を目指している。

## IV. 精神生理学研究会

1. 睡眠医療及び睡眠研究用プラットフォーム構築に関する研究、2. 臨床評価を踏まえた睡眠障害の治療ガイドライン作成および難治性の睡眠障害の治療法開発に関する研究、3. 不眠症を対象とした認知行動療法による睡眠構造および自律神経活動に与える影響、4. 慢性不眠症およびうつ病の不眠症状に対する認知行動療法の有効性に関する研究、5. 客観的疲労評価測定による閉塞型睡眠時無呼吸症候群の重症度評価に関する検討、などを継続した。

## V. 老年精神医学研究会

認知症患者や老年期の精神疾患患者に対して、脳

画像検査や神経心理検査および遺伝子検索を行い、精神症状や社会認知障害の神経基盤を明らかにする一連の研究を行っている。一つの研究ではアルツハイマー病（AD）の病識低下に注目し、神経変性に対する代償機構がどのようにADの病識に関与するかを検討した。結果としては、病識低下は右前頭葉の機能低下からくる遂行機能障害および、それを代償するための左頭頂後頭連合野の意味記憶システムの活性化と関連することが明らかとなった。また別の研究ではADの病態におけるDNAメチル化の関与について調査し、NCAPH2/LMF2プロモーター領域のDNAメチル化がADおよび軽度認知障害のバイオマーカーとなり、それは海馬萎縮と関連していることが明らかとなった。今後はこのようなDNAメチル化がBPSDに及ぼす影響に焦点をあてて調査を行う予定である。

## VI. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では、認知・行動感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療（緩和ケア）では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

原発性消化器がんの術後せん妄のリスクファクターに関する研究を行っている。

## VII. 臨床脳波学研究会

本年度はてんかんに関連して幻覚・妄想等の精神症状を認めた症例について、ネオジャクソニズム（エー・H）をもとに症状の発現につき解釈をこころみた。また、妊娠中でのてんかん例における新規抗てんかん薬の血中濃度変化が検討され新たな報告がなされた。その他の進行中の研究として、精神症状を有するてんかん例の薬物治療の安全性と効果についての研究、そしててんかん例の抑うつ再発予防に関する研究がある。今後さらにてんかん合併女性の妊娠に関する臨床的研究を進める予定である。

## Ⅷ. 臨床心理学研究会

2016年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討を継続して行った。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、社会技能訓練などのさらなる学習を行った。心理テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い(研究会)では、篠竹利和先生を招聘し、「発達障害の心理検査から読み取れること-WAIS-Ⅲを中心に」についてのご講演を賜り、実際の臨床場面における発達障害のアセスメントについてより深く学ぶことができた。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

### 「点検・評価」

2016年度においても、8部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、神経科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体制にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な結果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえ、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要性を感じている。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Chung JK, Nakajima S, Shinagawa S, Plitman E, Iwata Y, Gerretsen P, Chakravarty MM, Caravaggio F, Pollock BG, Graff-Guerrero A; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Benzodiazepine use attenuates cortical  $\beta$ -amyloid and is not associated with progressive cognitive decline in non-demented elderly adults: a pilot study using  $F^{18}$ -Florbetapir positron emission tomography. *Am J Geriatr Psychiatry* 2016; 24(11): 1028-39.
- 2) Fujino J, Fujimoto S, Kodaka F, Camerer CF, Kawada R, Tsurumi K, Tei S, Isobe M, Miyata J, Sugihara G, Yamada M, Fukuyama H, Murai T, Takahashi H. Neural mechanisms and personality correlates of the sunk cost effect. *Sci Rep* 2016; 6: 33171.
- 3) Nakano T, Kodaka F, Tsuneoka H. Differences in neuroticism between patients with glaucoma who have discontinued visits to ophthalmologists and those who make regular visits: implications for adherence to topical glaucoma medications. *Ophthalmol Ther* 2016; 5(2): 207-14.
- 4) Kobayashi N, Shinagawa S, Nagata T, Shimada K, Shibata N, Ohnuma T, Kasanuki K, Arai H, Yamada H, Nakayama K, Kondo K. Usefulness of DNA methylation levels in COASY and SPINT1 gene promoter regions as biomarkers in diagnosis of Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment. *PLoS One* 2016; 11(12): e0168816.
- 5) Aoki R, Kobayashi N, Suzuki G, Kuratsune H, Shimada K, Oka N, Takahashi M, Yamadera W, Iwashita M, Tokuno S, Nibuya M, Tanichi M, Mukai Y, Mitani K, Kondo K, Ito H, Nakayama K. Human herpesvirus 6 and 7 are biomarkers for fatigue, which distinguish between physiological fatigue and pathological fatigue. *Biochem Biophys Res Commun* 2016; 478(1): 424-30.
- 6) Shinagawa S, Kobayashi N, Nagata T, Kusaka A, Yamada H, Kondo K, Nakayama K. DNA methylation in the NCAPH2/LMF2 promoter region is associated with hippocampal atrophy in Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment patients. *Neurosci Lett* 2016; 629: 33-7.
- 7) Yamadera W, Morita M. Psychophysiological evaluations of clinical efficacy in outpatients Morita therapy for psychophysiological insomnia. *J Sleep Disord Ther* 2016; 5(2): 235.
- 8) Yamadera W, Morita M, Sakamoto S, Kuroda A, Itoh H, Nakayama K. Comparison of escitalopram alone and combined with zolpidem in treating major depression and related sleep impairments. *Sleep Biol Rhythms* 2016; 14(3): 303-8.
- 9) Takeshita Y, Shibata N, Kasanuki K, Nagata T, Shinagawa S, Kobayashi N, Ohnuma T, Suzuki A, Kawai E, Takayama T, Nishioka K, Motoi Y, Hattori N, Nakayama K, Yamada H, Arai H. Genetic association between RAGE polymorphisms and Alzheimer's disease and Lewy body dementias in a Japanese cohort: a case-control study. *Int J Geriatr Psychiatry* 2016

Oct 4. [Epub ahead of print]

- 10) 沖野慎治, 小野和哉, 中村晃士, 神田真里, 小高文聰, 中山和彦. 自閉スペクトラム症の注意機能と精神症状との関連性. 慈恵医大誌 2016; 131(5): 121-30.
- 11) 互 健二, 品川俊一郎, 平川淳一, 伊藤 卓, 加藤英之, 堀内智博, 萱野武夫, 西根 久, 稲村圭亮, 中山和彦. 老年期うつ病として治療中, パレイドリア・テストによりレビー小体型認知症を疑い, 診断に至った1例. 精神科治療 2016; 31(5): 659-63.

## II. 総 説

- 1) 山寺 亘. 【睡眠科学の新潮流】不眠症の認知行動療法. 医薬ジャーナル 2017; 53(2): 57-60.
- 2) 山寺 亘. 【睡眠障害と臨床検査】睡眠障害に対する非薬物療法. 臨検査 2016; 60(9): 962-6.
- 3) 小高文聰. Aberrant salience (異常顕現性) を中心とした精神病モデル. 社精医研紀 2017; 45(1): 45-9.
- 4) 川上正憲, 中山和彦. 強迫性障害に認められる「怒り」に関する研究 - 入院森田療法を行った40名を対象として -. 精神誌 2016; 118(7): 484-500.
- 5) 品川俊一郎. 【医師のための認知症の理解と援助】《ケア 困ったときの道しるべ》 食行動の問題をどう考えて対処するか Mod Physician 2016; 36(10): 1109-12.
- 6) 品川俊一郎. 前頭側頭葉変性症と紛らわしい病態前頭側頭型認知症の多様性と臨床診断の問題. 高次脳機能研 2016; 36(3): 361-7.
- 7) 品川俊一郎. 【認知症の人の認知機能障害, 生活障害, 行動・心理症状の構造】前頭側頭型認知症の認知機能障害, 生活障害, 行動・心理症状. 精神医 2016; 58(11): 927-31.
- 8) 品川俊一郎. 【知的活動と認知機能】脳予備能と認知予備能. 老年精医誌 2017; 28(1): 19-23.
- 9) 品川俊一郎. 【認知症の過剰診断と過少診断】前頭側頭型認知症の過剰診断と過少診断. 老年精医誌 2016; 27(7): 753-7.
- 10) 品川俊一郎. アルツハイマー病の言語症状. Brain Nerve 2016; 68(5): 551-7.

## III. 学会発表

- 1) Ayabe N, Okajima I, Nakajima S, Inoue Y, Uchimura N, Yamadera W, Kamei Y, Mishima K. Effectiveness of cognitive behavioural therapy for insomnia: randomized controlled trial in a multicentre study in Japan. EABCT2016 (The 46th European Association of Behavioural and Cognitive Therapies Congress). Stockholm, Aug.
- 2) Tateno A, Imamura Y, Takahashi A, Suzuki Y, Ishiyama N, Tani K, Yano K, Shioji R, Nakamura K,

Nakayama K. Factors of Ineffectiveness and Drop-out of Inpatient Morita Therapy for the Patients with OCD. The 9th International Congress of Morita Therapy. Exceter, Sept.

- 3) Kobayashi N, Aoki R, Kuratsune H, Oka N, Takahashi M, Shimada K, Yamadera W, Iwashita M, Ito H, Nakayama K, Kondo K. Human herpesvirus 6 (HHV-) and HHV-7 reactivation in fatigue, which distinguishes between physiological fatigue and pathological fatigue. 第64回日本ウイルス学会学術集会. 札幌, 10月.
- 4) Shinagawa S, Babu A, Sturm V, Shany-Ur T, Ross PT, Zackey D, Poorzand P, Grossman S, Miller BL, Rankin KP. Neural basis of motivational approach and withdrawal behaviors in neurodegenerative disease. 10th International Conference on Frontotemporal Dementias. Munich, Sept.
- 5) 館野 歩, 太田大介. 抗精神病薬と入院森田療法を併用し改善した強迫症とチック症を併存した成人2症例. 第112回日本精神神経学会総会. 千葉, 6月.
- 6) 互 健二, 西根 久, 品川俊一郎, 加藤英之, 堀内智博, 渡部洋実, 伊藤 卓, 中山和彦. 視力低下などに伴い幻視が出現し, パレイドリア・テストにより Lewy 小体型認知症を疑い診断に至った一例. 第112回日本精神神経学会学術総会. 千葉, 6月.
- 7) 互 健二, 品川俊一郎, 加田博秀, 稲村圭亮, 中山和彦. 認知症患者の病識と受療行動との関連. 第31回日本老年精神医学会. 金沢, 6月.
- 8) 山寺 亘. 不眠症の治療標的症とその評価~うつ病に伴う慢性不眠障害の治療効果判定に関する経験から~. 日本睡眠学会第41回定期学術集会. 東京, 7月.
- 9) 山寺 亘. (ワークショップ9) 睡眠障害の診断基準 - DSM-5 と ICSD-3 -. 第112回日本精神神経学会総会. 千葉, 6月.
- 10) 小林伸行, 青木 亮, 岡 直美, 高橋麻弓, 嶋田和也, 玉井将人, 山寺 亘, 岩下正幸, 倉恒弘彦, 伊藤洋, 中山和彦, 近藤一博. 唾液中ヒトヘルペスウイルス (HHV-) 6 及び HHV-7 量による病的疲労と生理的疲労との鑑別に関する検討. 第12回日本疲労学会総会・学術集会. 横浜, 5月.
- 11) 小林伸行, 品川俊一郎, 永田智行, 嶋田和也, 柴田展人, 大沼 徹, 笠貫浩史, 新井平伊, 山田 尚, 中山和彦, 近藤一博. 血液中 DNA メチル化変化を利用したアルツハイマー病と軽度認知機能障害の新規診断法に関する検討. 第31回日本老年精神医学会. 金沢, 6月.
- 12) 石井洵平, 小高文聰, 宮田久嗣, 川村 諭, 古賀聖名子, 中山和彦. 統合失調症の高機能な寛解維持期(回復期)を予測する生育・心理・社会的因子に関する予備的研究. 第46回日本神経精神薬理学会年会. ソウル,

- 7月.
- 13) 村岡理子, 能 里江, 原扶美子, 大倉智徳, 杉原亮太, 互 健二, 松尾活光, 林賢一郎, 加田博秀. 総合病院精神科外来における長期ひきこもり患者の集団精神療法の報告. 第112回日本精神神経学会学術総会. 千葉, 6月.
- 14) 谷井一夫. 気分障害患者における臥褥の意義についての検討. 第34回日本森田療法学会. 東京, 11月.
- 15) 谷井一夫. 入院森田療法を施行された身体疾患を契機に発病したうつ病の一例. 第10回多摩難治性うつ病研究会. 東京, 6月.
- 16) 谷井一夫, 鈴木優一, 今村祐子, 赤川直子, 石山菜奈子, 矢野勝治, 塩路理恵子, 館野 歩, 中村 敬. 入院森田療法を施行された身体疾患を契機に発病したうつ病の一例. 第16回世田谷区医師会医学会. 東京, 12月.
- 17) 中山和彦. (会長講演) まっすぐ・ところに届く・精神医学—その軌跡をたどる. 第112回日本精神神経学会学術総会. 千葉, 6月.
- 18) 品川俊一郎. (公募シンポジウムⅡ: 認知症の食行動異常) 認知症の食行動異常 (総論). 第40回日本神経心理学会学術集会. 熊本, 9月.
- 19) 品川俊一郎, 繁信和恵, 互 健二, 福原竜治, 上村直人, 森 崇明, 吉山顕次, 数井裕光, 中山和彦, 池田 学. 前頭側頭葉変性症患者の触法・違反行為に関する多施設後方視的検討. 第35回日本認知症学会学術集会. 東京, 12月.
- 20) 堀内智博, 互 健二, 平川淳一. 本邦の民間精神科病院における電気けいれん療法の実態調査. 第112回日本精神神経学会学術総会. 千葉, 6月.

チ: 睡眠衛生指導, CBT-I, 森田療法について. 中村敬編. 東京: 星和書店, 2016. p.163-76.

#### IV. 著 書

- 1) 中山和彦. 非定型精神病とカタトニア: 拒絶と服従から学ぶ症候学. 東京: 星和書店, 2016.
- 2) 山寺 亘, 伊藤 洋. 3. 各論: 高齢者の睡眠障害とその対策 1) 不眠症の診断と治療 (2) 不眠症の薬物療法と非薬物療法. 高齢者の睡眠とその障害: Advances in Aging and Health Research 2016. 東浦: 公益財団法人長寿科学振興財団, 2017. p.91-9.
- 3) 山寺 亘. 第5部: 問題別心理介入プロトコル 第20章: 心身症 不眠障害. 下山晴彦 (東京大), 中嶋義文 (三井記念病院). 精神医療・臨床心理の知識と技法: 公認心理師必携. 東京: 医学書院, 2016. p.92-4.
- 4) 山寺 亘. 第16章: 精神疾患 レム睡眠行動障害, 概日リズム睡眠-覚醒障害群. 福井次矢 (聖路加国際病院), 高木 誠 (東京都済生会中央病院), 小室一成 (東京大) 総編集. 今日の治療指針. 2017年版. 東京: 医学書院, 2017. p.1012-3.
- 5) 山寺 亘. 第12章: 睡眠-覚醒障害群へのアプロー